

情 報	書評 .....	209
	カレンダー .....	211
	根の研究11巻総目次 .....	213
会 告	.....	215

## 会員の皆様へ

2002年12月 会長 谷本 英一

### 1. 学術会議のいくえ？

日本学術会議（以下学術会議）（<http://www.scj.go.jp/>）は、1949年に設置されて以来、科学者のわが国の代表機関として、科学者の声を政策に反映させるための政府に対する勧告、各国の科学者組織との協働、シンポジウムの開催や出版物等を通じての学術・科学の啓発活動、科学技術政策やその予算に関するアドバイスなど、様々な面で重要な役割を果たしてきました。しかし、設置以来半世紀を経て、社会環境、学問分野、科学者の位置づけ等の変遷により、各方面でその改革論議が活発に行われております。このような状況下で、学術会議は今年4月に「日本学術会議の在り方について」中間まとめを出しています。一方、内閣総理大臣の諮問機関である総合科学技術会議（<http://www8.cao.go.jp/cstp/>）は、11月に「日本学術会議の在り方について（中間まとめ）」を出しました。それに先だって、10月29日に学術会議によって、これらの動きに関する登録学術研究団体に対する説明会が行われました。この説明会には、本研究会から阿部淳氏（東大・農）がご出席下さり、その内容を11月9-10日の第17回根研究集会で、ご報告頂きました。

本研究会は、第18期より学術研究団体として学術会議に登録し、活動して参りました。研究者としても、また、登録団体としても科学と技術の将来がどのような方向に進むのかについて無関心ではられません。政策に影響力をもつ科学者の代表をどのように選ぶのか、また選ぶ側の資格や学会組織の資格なども変革される可能性があります。本会では、根研究集会でのご報告の要旨などをメーリングリストなどで情報提供する予定です。以下に、関連サイトを掲載します。ご参照下さい。

**学術会議中間報告** (<http://www.scj.go.jp/arikata/arikatatop.html>)

**総合科学技術会議中間報告** (<http://www8.cao.go.jp/cstp/pubcomme/gakujutsu/middle.pdf>)

2. **第17回研究集会**は拓殖大学工学部仁木輝緒氏のお世話で盛会のうちに終わりました。拓殖大学のすばらしいキャンパスと国際交流センター施設を使わせていただき、若い人たちを中心として夜半まで活発な討論が続きました（本号報告記事もご参照下さい）。仁木先生はじめ、ご協力いただいた皆様ありがとうございました。

3. **苜住基金による助成**は、2003年に開かれる木本植物関係の国際会議へ参加する学生（会員）への参加助成金に使わせていただくことになっています。本号212頁の応募要項をごらんになりご応募下さい。

4. **来春の第18回集会**は大阪市立大学理学部保尊隆亮氏のお世話で大阪・梅田駅前第2ビル内の大阪市立大学学術交流センターで6月14日（土）に開催されます。奮ってご参加下さい。また、来年秋の集会は筑波大学・佐藤忍氏のお世話で開催される予定です。